

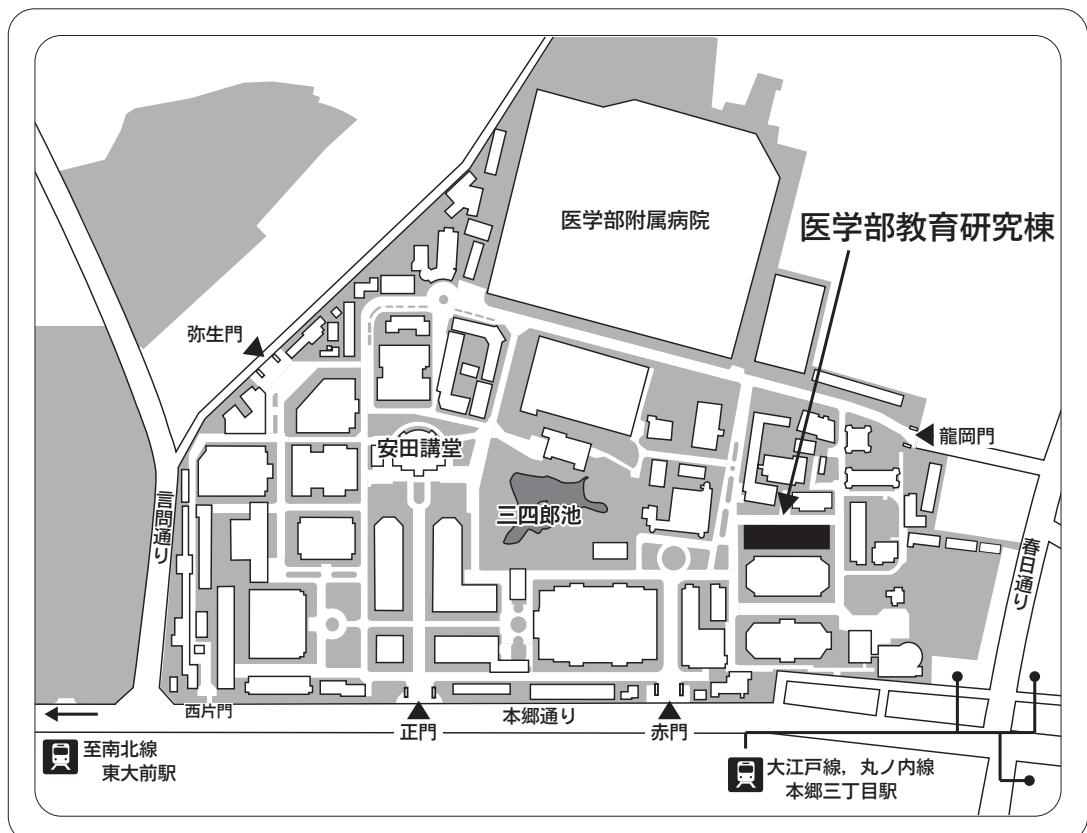
# 第 566 回

## 日本小児科学会東京都地方会講話会

### プロ グ ラ ム

日 時 平成 21 年 6 月 6 日 (土) 午後 2 時 00 分

場 所 東京大学鉄門記念講堂(医学部教育研究棟14階)



#### 演題の申し込みについて

- 講話会の当日、文書で提出、もしくは e-mail で事務局宛送ってください。
- 抄録(160字以内)をおつけください。
- 原則として指定発言をつけてください。
- 演者、指定発言者は、当日二次抄録(200字以内)を提出してください。(日本小児科学会誌掲載の為)

#### 世話人

プログラム係  
帝京大学 小児科

志賀 勝秋

03(3964)1211

FAX 03(3579)8212

会場係

東京大学小児科

渡辺 博

03(3815)5411 内線 33453

直通(FAX) 03(3816)4108

事務局

03(5388)7007

e-mail:jpstokyo-office@umin.ac.jp

# 第 566 回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1題 6分, 指定発言 5分, 追加討論 3分以内, 厳守のこと。○印演者)

第 1 グループ 14:00—14:30

座長 邊見 伸英（東京女子医大東医療センター周産期診療部新生児部門）

## 1) Langerhans 細胞組織球症が疑われた 1 新生児例

○村野 弥生, 東海林宏道, 池野 充, 松永 展明, 古川 岳史,  
吉川 尚美, 久田 研, 奥村 彰久, 清水 俊明（順天堂大学小児科）

日齢 6 の女児。生下時より皮疹, 肝腫大があり, CRP 値の上昇を認め抗菌薬投与を受けていた。その後, 血小板減少や灰白色便を認め当院へ転院となった。ウイルス感染症や血球貧食症候群を疑ったが確定せず, 中枢神経病変や皮疹の変化から LCH を考え精査中の日齢 32 に急激な循環動態悪化のため死亡した。免疫組織検査を行ったが診断に苦慮している。

## 2) 適切な母体治療後にもかかわらず発症した新生児ヘルペス脳炎の 1 例

○熊坂 栄, 阿部 正徳, 桑原健太郎, 右田 真, 福永 慶隆（日本医科大学病院小児科）

症例は日齢 13 に発熱を来たし, リンパ球優位の髄液細胞数增多よりウイルス性髄膜炎と診断された。その後髄液中 HSV-DNA-PCR が陽性と判明した。MRI で側頭葉病変を認めたためヘルペス脳炎と診断した。母体は妊娠 22 週に性器ヘルペスを発症し適切なアシクロビル投与にて治癒を確認後に児を経験分娩していた。母児の臨床経過を報告する。

## 3) 母体の薬物乱用が原因と考えられた斜顔面裂の 1 例

○神山 八弓, 宗像 俊, 田口 洋祐, 岡橋 綾, 吉川 香代,  
米沢 龍太, 牧本 優美, 細野 茂春, 岡田 知雄, 麦島 秀雄（日本大学小児科）

症例は 5 カ月男児。胎児エコーで全前脳症と診断。37 週 2 日, 帝王切開で出生。体重 2820 g, Apger 7/8。出生時, 脣鼻臉裂, 右 2,3,4 合指症, 左 4,5 合指症を認めた。斜顔面裂は, 瘢合不全だけでは説明できない点が多く, 放射線治療や感染・代謝障害, 薬物などが影響するとされており, 若干の文献的考察を加えて報告する。

第 2 グループ 14:30—15:15

座長 百村 芽衣（板橋セントラルクリニック小児科）

## 4) 急性硬膜下血腫をきたし, ビタミン K 利用障害が疑われた 4 カ月女児の 1 例

○竹田 清香, 金子 節子, 荒木 聰, 元吉八重子,  
西田 俊彦, 小野 真, 佐々木章人, 高木 正稔,  
長澤 正之, 土井庄三郎, 森尾 友宏, 水谷 修紀（東京医科歯科大学病院小児科）

症例は、4 カ月女児。周産期・発達歴に異常なし。ケイツーシロップ内服済み。意識障害を主訴に当院紹介となった。急性硬膜下血腫を認め, PIVKA II が 65240 mAU/ml と著明に上昇しており, ビタミン K 利用障害が疑われたが, 肝胆道系の異常は認めず, 受傷機転も明らかではなかった。文献的考察を加えて報告する。

## 5) 遠位尿細管性アシドーシス (dRTA) の姉妹例

○ 笹野 明子, 三浦健一郎, 小太刀康夫, 狩野 博嗣,  
高橋 和浩, 関根 孝司, 五十嵐 隆 (東京大学小児科)

姉は1ヵ月時に体重増加不良で発症。AG 正常の代謝性アシドーシス、尿酸性化障害、両腎石炭化を認め dRTA の診断に至った。妹は日齢4で哺乳不良で受診し、精査の結果同疾患と診断し治療を開始した。生後1ヵ月現在腎石灰化を認めていない。いずれも明らかな難聴はない。今後 H+-ATPase の遺伝子検査を予定している。

指定発言 五十嵐 隆 (東京大学小児科)

## 6) 未寛解思春期喘息患児に対する吸入ステロイド薬 (ICS) クロノセラピー

○ 近藤 信哉, 小保内俊雅, 小濱 雅則, 塩津 麻美, 二宮 康高, 玉川 公子  
(東京都保健医療公社多摩北部医療センター小児科)

ICS 常用児では生涯喘息が激増することが報告されている。気道過敏性は11歳前後に改善し、気道炎症は夜間に悪化することから、ICS 未使用にも拘わらず思春期前に至っても1秒量改善のない6名において ICS クロノセラピーを試みた。ICS 投与中に1秒量はキャッチアップし、中止後も改善の維持をみたが、気道の安定性は得られなかった。

## 7) 一過性の低コリンエステラーゼ血症と重度な筋無力症を認めた気管支喘息の1幼児例

○ 志村 優, 森地振一郎, 佐藤 美紀, 吳 宗憲, 五百井寛明,  
柏木 保代, 河島 尚志, 武隈 孝治, 星加 明徳 (東京医科大学小児科)

1歳男児、気管支喘息にて呼吸障害を認め入院。ステロイド、テオフィリン製剤にて治療を行うも改善なく、縦隔気腫・皮下気腫を合併した。同時期より血中コリンエステラーゼの低下と筋力低下を伴い、人工呼吸管理となる。呼吸管理中止後も歩行・座位保持不能となったが、コリンエステラーゼの改善と共に筋力は改善し後遺症なく退院した。

休憩 15:15—15:25

感染症だより 15:25—15:35

座長 山本 光興 (山本小児科)

岡部 信彦 (国立感染症研究所感染症情報センター)

教育講演 15:35—16:15

座長 佐々木伸彦 (佐々木こどもクリニック)

日常診療における小児整形外科疾患の診断

芳賀 信彦 (東京大学大学院医学系研究科リハビリテーション科)

小児科医の日常診療や健診において、筋骨格系の症状が主訴になることがしばしばあると思われる。経過を見るべきか、整形外科にコンサルトすべきか、あるいはすぐに専門医へ送るべきかの判断に少しでも役立てるよう、代表的な疾患を例にあげて提示する。具体的には、乳児健診における先天性股関節脱臼の診断、股関節痛や跛行を主訴とする疾患(単純性および化膿性股関節炎、ペルテス病、大腿骨頭すべり症)、様々な足部変形(内反足、内転足、外反足、外反踵足など)、身体的虐待と骨形成不全症の鑑別、についてお話しする。

### 第3グループ 16:15—17:00

座長 萩原 教文（帝京大学病院小児科）

#### 8) 精神疾患として加療されていた正常圧水頭症の1例

○五十嵐鮎子, 福永 英生, 山下進太郎, 戸塚 真紀, 中尾 彰祐,  
倉繁 朋子, 水野 恵, 加藤麻由子, 山田 浩之, 海野 大輔,  
大高 正雄, 鎌田 彩子, 大友 義之, 新島 新一（順天堂大学練馬病院小児科）  
菱井 誠人（ 同 脳神経外科）

13歳男児。半年前より健忘・失語が出現、1ヵ月後より体幹失調が出現。近医精神科で解離性障害と診断され、抗精神薬の処方を受けていた。頭痛・嘔吐も出現したため他医精神科を受診、器質的疾患の存在を疑われ紹介された。MRIで脳室拡大と中脳水道上部の腫瘍を認め正常圧水頭症と診断。健忘を伴う疾患には器質的疾患の検索が重要である。

#### 9) 患者の言葉を信ずるべきか、疑うべきか—摂食障害が疑われた症例からの一考察—

○関口進一郎, 栗津 緑, 高橋 孝雄（慶應義塾大学小児科）

「私は吐いてない。たくさん食べているのなぜやせるのかわからない。」体重減少、続発性無月経の15歳女性。食へのこだわり、過活動を認めた。過食・嘔吐を疑うか、それとも患者の言葉を信じるか。摂食障害が疑われる症例の外来診療初期に、確定診断と治療関係構築との間で経験するジレンマを克服するために、我々に何ができるか考察する。

#### 10) 当院で経験した僧帽弁腱索断裂の4乳児例

○平井 聖子, 古宮 圭, 桃木恵美子, 大沼 健一,  
西口 康介, 玉木 久光, 大森 多恵, 伊藤 昌弘,  
三澤 正弘, 大塚 正弘, 関 一郎（東京都立墨東病院小児科）  
佐藤 圭子, 大槻 将弘, 高橋 健, 秋元かつみ, 稀代 雅彦（順天堂大学小児科）

平成8年から20年までに僧帽弁腱索断裂による急性僧帽弁閉鎖不全症を4例経験した。4例とも乳児で全例に外科的手術を必要とした。2例が生存、2例が死亡した。原因として1例で川崎病との関係が否定できなかったが3例は特発とえた。主訴は非特異的なものが多く初診時に確定診断に至った症例はなかった。若干の文献的考察を加えて報告する。

指定発言 川崎志保理（順天堂大学心臓血管外科）

#### 11) Eustachian Ridge を合併した心室中隔欠損の1乳児例

○坊野 恵子, 浦島 崇, 斎藤 亮太, 安藤 達也,  
藤原 優子, 中澤 誠, 井田 博幸（東京慈恵会医科大学小児科）

症例は7ヵ月男児。6ヵ月健診で心雜音を指摘され当科受診。心エコーで心室中隔欠損と診断した。また右房内に高エコーの異常構造物を認めた。術中所見で冠静脈洞から右房に連続する腱索を認め、異常構造物はEustachian Ridgeと診断し切除を行なった。稀な疾患であり心内異常構造物の鑑別診断として重要と思われる所以報告する。

## 【運営委員会だより】

1. 5月の講話会出席者は268名、新入会員13名、退会者0名、会員総数1,905名、ベビーシッタールーム利用者7名でした。
2. 教育講演講師料および指定発言者謝礼が長年改定されておらず現在の基準からみて見劣りするとの意見があり、改定案が出され同意がなされました。本年7月の幹事会で承認を求める予定となりました。
3. 講話会の教育講演に関し、本年度はすべて予定が決まっていることもあり、年間スケジュールを作成して会員に配布し役立てていただくことで同意がなされました。6月の講話会プログラム発送時に同封する予定となりました。
4. 森善樹先生の都外への異動に伴い東京都地方会脱会および幹事辞任願いがありました。これに伴い現時点での幹事総数は86名となりました。
5. 本郷の医学書書店「文光堂」より東京都地方会開催時に会場で書籍の展示販売を行いたいとの申し出があり、討議がなされました。会員にとっても利便性が向上すると考えられることから、期限付き（東大構内で開催される2010年3月まで）で認める方向で進めていくことで同意がなされました。6月6日㈯予定の講話会開催時より開始の方向で準備中です。

## 【演題の申し込みについてのお願い】

- ・ 動画が含まれる場合には、その旨を明示して下さい。動画使用の場合には、具体的な注意事項を、折り返し事務局よりご連絡いたします。
- ・ 原則として指定発言をつけて下さい。
- ・ 演題の締切は次のようになります。

講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切
1月	前年11月30日	2月	前年12月31日	3月	1月31日
5月	2月28日	6月	4月30日	7月	5月31日
9月	6月31日	10月	8月31日	12月	9月31日

申込演題が12題以上になった場合、さらに1回先になることがありますのでご了承ください。  
その場合、事務局よりご連絡します。

## 【演者の先生方へのお願い】

一次抄録は160字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の200字以内を厳守くださるようお願いいたします。(原稿は活字もしくはワープロ文字で)

出席した会員に発表の意味をより強く、明確に伝えるために、最後（または適切な時期）にTake Home Message（この発表から学ぶこと）を手短な一文で記したスライドを付け加えて頂くようお願いいたします。

## 【会員登録事項の変更届についてのお願い】

- ・ 自宅、勤務先の住所（プログラム送付先）等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。登録事項変更届出用紙をご送付いたします。
- ・ 退会される場合も必ずご連絡ください。そのお届けがない場合は次年度も継続として年会費の請求を致します。

東京都地方会事務局 TEL: 03 (5388) 7007 / FAX: 03 (5388) 5193

## Presentationについて

発表は Computer Presentation (Windows) のみで受け付けます。Powerpoint 2000 以上で作成、Font 文字は Powerpoint 備え付けのみ。CD-R もしくは USB メモリーにて、第1, 2 グループ発表者は午後1時30分までに、第3 グループ以降の発表者は午後3時までにスライド受付まで持参して下さい。機器操作は、当方で行います。あらかじめウイルス check をお願ひいたします。

動画が含まれる場合には、ファイルのセーブ法などの注意事項がありますので、学会事務局に必ずご連絡ください。なお、当日なんらかの理由でうまく作動しない場合には、動画なしでご発表いただくことになることをご了承ください。

※ Vista には未対応です。Mac は使用できません。あらかじめファイルを Windows にて保存し直した上でご持参ください。

## 〈ベビーシッタールーム開設のお知らせ〉

乳幼児を同伴される方のために、ベビーシッタールームを開設します。利用ご希望の方は、利用日の1週間前までに事務局へお申し込み下さい。申し込みの際、お預けになるお子様の氏名・年齢・性別・及び預けられる時間帯を伺います。利用当日、お子様が好きな食べ物の・飲料・おもちゃ・着替え・おむつなどに名前を付けてご持参下さい。また申し込み受付後、問診票に記載していただきますことをご了承下さい。キャンセルされる場合は、3日前までにご連絡をお願いします。なお費用は学会が負担いたします。

日本小児科学会東京都地方会事務局 TEL 03-5388-7007/FAX 03-5388-5193

WAKODO

乳幼児用イオン飲料  
**アクアライト ORS**

## 乳幼児の電解質・水分補給を新提案！

水分・電解質の吸収率を高めるため、浸透圧を200mOsm/Lと低くしています。

酸味を抑え、乳幼児が飲みやすいりんご風味です。

人工甘味料・保存料等は一切使用しておりません。



乳幼児にとって理想的なバランスで電解質を補うことができます。  
125mLの飲み切りサイズです。

和光堂株式会社 お客様相談室フリーダイヤル

●インターネットで和光堂情報を提供しています。http://www.wakodo.co.jp